



ジャウメ・プレサ「ルーツ」(イメージ図)2014年・虎ノ門ヒルズ



アートが創る都市空間

新宿アイランドタワーから虎ノ門ヒルズへ

2015年

1月30日 (FRI)

シンポジウム 15:00-17:30 (開場14:30)

早稲田大学 総合学術情報センター・井深大記念ホール

交流会 18:00-20:30 早稲田大学 25号館 大隈ガーデンハウス(大隈庭園内)

定員: 400名(先着順)

参加費: ①シンポジウムのみ 3,000円 ②シンポジウム+交流会 6,000円 ※学生無料

申込: 別紙の参加申込書に必要事項を記入して2015年1月16日(金)までにファックスまたはEメールでお申込頂くと共に、参加費をお振込ください。
参加申込書は日本建築美術工芸協会ウェブサイトからも入手可能です。なお、会場の都合上、当日受付は致しかねますので、ご承知置きください。

シンポジウム

第一部 15:00-15:55

**都市型複合開発におけるアート小史
1995-2015**

レクチャー
南條史生

第二部 16:05-17:30

パブリックアートと街づくり

プレゼンテーション 石井リーサ明理、名和晃平
ディスカッション 石井リーサ明理、名和晃平、本 耕一、南條史生
※質疑応答時間あり

主催: 一般社団法人 **日本建築美術工芸協会、JAPAN ASSOCIATION OF ARTISTS CRAFTSMEN AND ARCHITECTS**

後援: (一社)日本建築学会、(公社)日本建築家協会、(公社)日本建築士会連合会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一社)日本インテリアプランナー協会
(一社)日本美術家連盟、(公財)日本美術協会

都市型複合開発におけるパブリックアートの役割を考える。

いま、オフィスや住宅を内包した超高層建築を中心に、商空間、文化施設、広場など、都市機能を高機能・高密度に統合させた複合開発は、都市の再生モデルとして飛躍的に進化を続けています。日本では、1990年代中期のバブル崩壊以降、経済のグローバル化に伴い、それまでの単体開発から複合開発へとシフトし、設計/建設技術を支えるITの劇的な進歩とともに、複雑で有機的なデザインの建築や街路・広場が実現可能となりました。こうした新しい街では、高水準な都市環境を創り出してきた一方で、都市・建築・人が有機的な関係をもつヒューマンスケールの環境や、地域の固有性に裏付けられた街独自の魅力発信力が問われています。アートは、新しい街と人をつ結びつける媒体として、都市・建築デザインとは異なるアプローチをもつことから、都市開発の進化とともに、その存在感を高めてきています。このシンポジウムは、都市型複合開発においてアートが生み出してきた空間性に注目し、その役割と可能性について考察する機会としたいと考えています。



南條 史生 森美術館館長

1949年東京生まれ。国際交流基金職員等を経て2006年11月より現職。1997年ヴェニス・ビエンナーレ日本館、1998年台北ビエンナーレ及びハノーバー国際博覧会日本館、2001年横浜トリエンナーレ2001、2006年/2008年シンガポールビエンナーレ等のアートディレクションを担当。パブリックアート、コーポレートアートの監修として1995年新宿アイランド、1997年博多マリバレイ、2006年ヴィヴオシティ(シンガポール)、1999年大林組東京本社等のほか、2008年開館の十和田市現代美術館設立計画のプロジェクト監修に関わる。近著に「アートを生きる」(角川書店、2012年)がある。



石井リーサ明理 照明デザイナー/I.C.O.N.代表

東京生まれ。東京藝術大学美術学部、東京大学総合文化研究科修士課程修了。日米仏でアートとデザインを学び、照明デザイン事務所勤務後、2004年I.C.O.N.を設立。現在パリと東京を拠点に、世界各地で都市、建築、イベント、ライトアート、展覧会、舞台照明等のデザインに参加。主な作品にポンピッドゥー・センター・メッセ、トゥール大聖堂付属修道院、リヨン光の祭典、歌舞伎座等。フランス照明デザイナー協会正会員。著書『都市と光〜照らされたパリ』他。2009年トロフィー・ルミヴィル、北米照明学会デザイン賞等受賞多数。



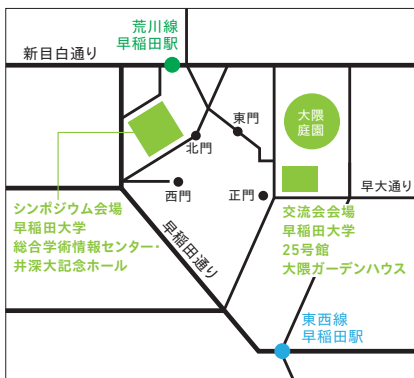
名和 晃平 彫刻家・京都造形芸術大学准教授

1975年大阪生まれ。2011年、東京現代美術館で個展「名和晃平—シンセシス」を開催。2013年の瀬戸内国際芸術祭、あいちトリエンナーレなど、数々の国際展にてサイトスペシフィックな作品を発表する。同年、韓国チョナン市に大規模な屋外彫刻「Manifold」を設置。独自の「Cell」という概念を軸に様々な素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を拓ける。近年、自身がディレクターを務めるクリエイティブ・プラットフォーム「SANDWICH」において、一級建築士事務所として本格的に建築プロジェクトを手がけ始め、独自性に富んだ空間/体験の創出を目指す。



本 耕一 森ビル株式会社 取締役 常務執行役員

1954年東京生まれ。1981年に日建設計入社、設計部に所属。日建設計では1997年竣工のすみだトリフォニーホール、2000年竣工のさいたま新都心合同庁舎などの複合再開発の設計を手掛ける。2000年2月森ビルへ入社。森ビルでは、六本木ヒルズ(2003年竣工)、表参道ヒルズ(2006年竣工)、アークヒルズ 仙石山森タワー(2012年竣工) 虎ノ門ヒルズ(2014年竣工)、街のグランドデザインなど、計画設計に携わる。BCS賞、グッドデザイン賞などを受賞。



シンポジウム会場

早稲田大学 総合学術情報センター・井深大記念ホール
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1丁目20-14

交流会会場

早稲田大学 25号館 大隈ガーデンハウス(大隈庭園内)

アクセス

- 東京メトロ 東西線 早稲田駅 徒歩5分
- 都電荒川線 早稲田駅 徒歩5分

問合せ

一般社団法人 日本建築美術工芸協会
Tel:03-3457-7998 Fax:03-3457-1598
Eメール:simpo@aacajp.com
URL: <http://www.aacajp.com>



ロバート・インディアナ 《LOVE》1993(1968年) 新宿アイランドタワー 撮影:山本朝



石井リーサ明理 《フランデンベルグ門(ベルリンに灯された平和のメッセージ)》2011年



マシュー・リッチャー 《Deep Six》2003年 汐留シティセンター



吉水浩 《Rubious》2002年 中之島三井ビルディング 撮影:井上ブルックスタジオ

表面イメージ下より ルイス・ブルジョワ《ママン》2002年 六本木ヒルズ/カールステン・ニコライ《poly stella》2009年 霞が関ビルディング 撮影:フォワードストローク/チェ・ジョンファ《a column is columns》1999年 博多リバレイ 撮影:井上ブルックスタジオ/安田 侃《妙夢》2007年 東京ミッドタウン